

令和6年度 学校法人智香寺学園事業計画

I. 法人の部

私立学校法に基づき、法人として更なる運営基盤の強化を図るとともに、教育の質の向上及びその運営の透明性の確保に努めていきます。

明治36（1903）年の東京商工学校創立以来、経営体制や教育内容などの大きな変遷を経ながらも教育機関としての使命を全うすべく、教育研究活動を行って参りました。変化のスピードが速い現在においては、ICT技術の進化、価値観の多様化、社会の仕組みの変化などにより、学校そのもののあり方も含め、学ぶということについての多様性が進んでいます。様々な外部環境の変化が激しい今、従前と同じことを続けていたのでは、組織の進化発展は望めません。もちろん守るべき伝統もあります。逆に、時代に合わせて変えていかなければならないこともあります。本学園は仏教の教えを建学の精神に掲げております。仏教の目的である智慧と慈悲の実践される社会の構築を目指し、本学園はこれから何をすべきなのか、その中で実現できていないことは何か、新たな課題について学園全体として中長期計画を策定いたしました。

- ・ 学生生徒に主体性をもって学んでもらうために、何をすべきか
- ・ 誰もが学びやすく、働きやすい学園とするために何をすべきか
- ・ 多様性を尊重し、様々な学園構成メンバーに活躍してもらうために、何をすべきか
- ・ 大学間連携や産学官連携など、外部機関との連携を強化し、学園の発展と地域貢献に資する為に何をすべきか
- ・ 入学者数の確保と同時に、学生生徒納付金以外の収入を増やし、安定した財務基盤を構築するために何をすべきか

これらの課題を解決するために、なすべきことは山積ですが、不断の決意で学園一体となって邁進していきます。そして、地域社会から愛され、必要とされる学園を目指していきます。

また、継続して「教育研究充実・学生諸活動等助成資金」による寄附活動を進めてまいります。

II. 大学の部

1. 中長期ビジョン策定の背景

大学は、昭和51（1976）年に聖橋工業高等専門学校を前身として開学してから40余年という歩みの中、「テクノロジーとヒューマニティの融合と調和」をモットーに、単なる実学教育にとどまらず、学生一人ひとりの「こころ」の涵養により一層、力を注いでいきます。また、グローバル化や少子高齢化が著しく進展し、将来の予測が困難になっている現代において、大学には、地域社会、国際社会、産業界等社会のあらゆる分野における急激な変化に向き合い、生涯を通じて不断に学び、考え、予想外の事態を乗り越えながら、自らの人生を切り開き、より良い社会づくりに貢献していくことのできる人間を育てることが求められています。こうした状況の中で、埼玉工業大学は、建学の精神と教育の理念に基づく教育研究活動を永続的に発展させるため、新たに将来計画に関わる中長期ビジョンを掲げ、来る令和9（2027）年を見据えたビジョンを策定しました。

今後の目標

平成22（2010）年以降続いていた入学定員の確保でしたが、昨年断念ながら定員を下回る事態が生じました。そのためこれまで以上に離籍率の減少に対して真摯に取り組んでいかねばならないと考えています。そこで中長期ビジョンの実現には次の目標を定めています。

- (1) 入学定員の確保 100%+α
- (2) 離籍率（1年間）3%以下
- (3) 就職率 95%以上

- (4) 大学院進学率 10%以上
- (5) 健全な財務の実現
- (6) 新時代を担う技術の開発と社会への還元

この目標を達成するための戦略として、入学戦略、教育改革戦略、学生支援戦略、キャリア・就職支援戦略、地域連携戦略、研究活動活性化戦略、管理運営体制強化戦略の7項目を掲げ、その具体的な取組みを実施していきます。

2. 自己点検評価

4度目の認証期間となる公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）について、協会より指摘のあった部分に対して自己点検作業を継続的に実施し、改善に取り組んでいきます。

- ・ 認定期間は令和2（2020）年4月1日から令和9（2027）年3月31日までの7年間
- ・ 認証期間等の詳細等は、本学ホームページにて広く一般に周知します。

3. 学部教育

入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー・AP）、教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー・CP）、学位授与・学習評価方針（ディプロマ・ポリシー・DP）の3つの方針に従い、建学の精神に基づく学部教育を実践します。大学に課せられた重要な使命は、少子高齢化社会により大きな構造変化を迎える日本社会で活躍できる人材育成を行うことです。これまで行ってきたアクティブラーニングに加え、ものごとの本質を見抜き、正確で客観的なデータに基づく判断能力を持った人材育成を行えるような教育改革を進めます。

4. 学生支援

本学は、仏教精神を基盤に学生一人ひとりが意欲を持って学業や課外活動に取り組むことができる環境を整備し、学習支援、学生相談、ハラスメント相談、障害者支援、経済的支援等の支援を充実させ、相互の人格を尊重し合い切磋琢磨しながら学べる教育環境の確立を目指します。また、就職支援では、キャリア支援センターと就職課が連携を取りながら学生にとって有益な種々のサポートを実施します。

5. 大学設置基準等の改正

令和4年9月30日付けで、大学設置基準等の一部を改正する省令等が公布され、10月1日から施行されました。

（目的）

学修者本位の観点から、質保証システム全体として最低限保証すべき質を厳格に担保しつつも、時代に応じて柔軟性のある仕組みとするため、最低基準性を担保したうえで、大学が創意工夫に基づく多様で先導性・先進性のある教育活動研究が行えるよう、大学設置基準等の改正を行う。

（基本的な考え方）

「学修者本位の教育の実現」の考え方を踏まえた質保証システムへと反映させ、また、必要な情報を社会に公表し社会との対話を進める「社会に開かれた質保証」を図ることとする方針に基づき、「客観性の確保」、「透明性の向上」、「先導性・先進性の確保」の観点を踏まえ改正を行う。

（主な改正内容）

- ① 大学教育3つのポリシーに基づいて実施されるものであることや、内部質保証による教育研究活動の不断の見直しが求められること理念上、明確にする。
- ② 教員組織・事務組織等の組織関係規定の再整理

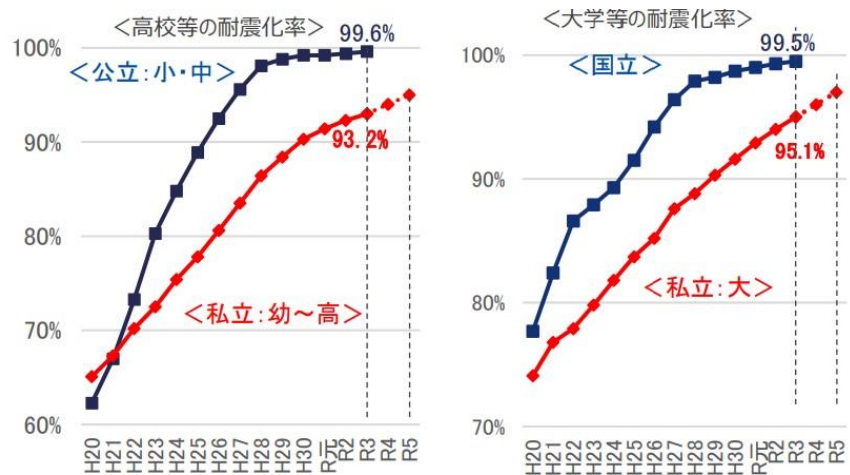
- ③ 基幹教員制度、授業科目の担当、研修等にかかる規定
- ④ 単位数の算定方法について
- ⑤ 校地、校舎等の施設及び設備等
- ⑥ 教育課程等に係る特例制度の改正内容に則し、不透明な時代において様々な試みを行いながら、教育研究の発展を図ってまいります。

(質の高い大学であるための要素)

- ・ 何を学び、身に付けることができるのかが明確になっているか
- ・ 学んでいる学生は成長しているのか
- ・ 学修の成果は出ているのか
- ・ 大学の個性を発揮できる多様で魅力的な教員組織・教育課程があるか等を踏まえ、「多様な価値観が集まるキャンパス」の実現を目指してまいります。

6. 学校施設の耐震化率等の向上

令和6年は、新しい年の平穏と多幸を願う元日に石川県の能登半島を大地震が襲うなど、今後発生が懸念されている南海トラフ地震や首都直下地震等に備え、早急に学生等の安全確保を図るため、学校施設の耐震化完了を目指しています。毎年、着実に耐震化率は進捗していますが、早期の完了を計画しています。補助金助成を申請していきながら施設の整備を促進してまいります。



出典:私立学校耐震改修状況調査(R4年以降は各法人の耐震化計画及び整備実績を踏まえた推計値)

【令和5年度】

- ・ 9、10、12号館の耐震診断実施
補助金名:「令和5年度私立学校施設整備費補助金」
申請部門:「耐震改修(補強)工事 ※耐震診断含む」
補助率:事業費の1/2以内
申請内容:9、10、12号館の耐震診断
(大規模災害(自然災害)における、構造体の耐震化工事に向けた診断)

【令和6年度】

- ・ 9、10号館解体工事計画(インフラ工事含む)・・・耐震化完了予定
- ・ 9号館跡地 新棟建設構想計画

令和5年度に実施する耐震診断の結果、9、10号館については、耐震性能が著しく低い建物(耐震上、建て替えざるを得ない建物<取壊し建物>)と診断(数値)されることが予想されるため、文部科学省の補助金を利用して耐震改築にむけた取り壊しを計画します。同時に取り壊し後の計画として、令和7年度の新棟建設に向けた構想計画を開始します。

【令和7年度】

- ・9号館跡地 新棟改築工事計画

9号館取り壊し後、文部科学省の補助金を利用して9号館跡地に新棟改築工事を開始します。

7. 私立学校法の一部改正

第211回国会（令和5年2月17日）における文部科学省提出法律案（私立学校法の一部改正案）が閣議決定されました。

（目的）

学校法人における円滑な業務の執行、幅広い関係者の意見の反映、逸脱した業務執行の防止・是正を図るため、理事、監事、評議員及び会計監査人の選任及び解任の手續、理事会及び評議員会の権限及び運営等の学校法人の管理運営に関する規定を整備するとともに、特別背任罪等の罰則について定める。

（基本的な考え方）

- ・「執行と監視・監督の役割の明確化・分離」の考え方から、理事・理事会、監事及び評議員・評議員会の権限分配を整理し、私立学校の特性に応じた形で「建設的な協働と相互けん制」を確立する。
- ・所轄庁の違いや、規模に応じた区分を設け、学校法人の実情に対応する。その際、所要の準備期間を設けるとともに必要に応じて経過措置を定める。

（主な内容）

- 学校法人における理事会と評議員会の意思決定権限
- 理事会の監督機能によるガバナンス強化
- 評議員会のチェック機能によるガバナンス強化
- 評議員の選任と評議員会の構成等の適切化
- 監事の地位の独立性と職務の公正性の確保
- 重層的な監査体制の構築

私立学校法の改正に則し、学長・校長の権限を最大限尊重しつつ、教育研究の発展に向け、高度で複雑な戦略的経営が必要となります。経営側と教学側が連携し、協調を図りながら、経営基盤の強化、教育の質の向上、運営の透明性の向上という責務を果たし、独自性のある本学園の充実発展を目指していきます。

また、私立学校法改正を踏まえた寄附行為変更については、文部科学省から作成例が提示されると同時に改正事項に向けた役員や評議員の人選・選任等を考慮する必要があります。そうした準備を令和5年度から次年度にかけて調整しながら推し進めてまいります。私立学校法改正は令和7年度4月1日に施行される予定です。

8. 学生募集計画

令和6（2024）年度生の学生募集は現在進行中であり結果は出ていないが、令和6（2024）年度入試においては、昨年よりさらに入学者数の減少が心配される。令和7（2025）年4月から、工学部は新設専攻を含む3学科10専攻編成、人間社会学部は情報社会学科の専攻名を変更する予定。分野を分けることにより、さらに高度に、そして専門性を高める学びの実現を目指す。志願者増のための広報に値する大学内部の教育システムの充実、新しい先端分野への取り組みと同時に、新たな改革が必要と考え、大学組織に「クリーンエネルギー技術開発センター」、「地域連携センター」を新設するなど、全学一丸となって学生確保に邁進してまいります。

(A) 大学院

工学研究科		人間社会研究科	
専攻名	募集定員	専攻名	募集定員
(博士前期課程)		(修士課程)	
機械工学専攻	6名	情報社会専攻	15名
情報システム専攻	7名	心理学専攻	10名
生命環境化学専攻	7名		
小計	20名	人間社会研究科合計	25名
(博士後期課程)			
機械工学専攻	2名		
情報システム専攻	2名		
生命環境化学専攻	2名		
小計	6名		
工学研究科合計	26名		

(B) 学部

工学部		人間社会学部	
学科・専攻名	募集定員	学科名	募集定員
機械工学科		情報社会学科	
(機械工学専攻)	60名	NEW (IT経営専攻)	50名
NEW (IT応用機械専攻)	20名	NEW (メディアデザイン専攻)	40名
NEW (AIロボティクス専攻)	20名		
計	100名	計	90名
生命環境化学科		心理学科	
NEW (バイオサイエンス専攻)	20名	(ビジネス心理専攻)	20名
(応用化学専攻)	20名	(臨床心理専攻)	30名
NEW (環境・エネルギー専攻)	20名		
計	60名	計	50名
情報システム学科		人間社会学部合計	140名
(IT専攻)	80名		
(AI専攻)	40名		
NEW (自動運転専攻)	40名		
(電気電子情報専攻)	40名		
計	200名		
工学部合計	360名		

9. 教育の充実

- ・ Society5.0 社会到来に向けた更なる教育の充実

(これからデジタルネイティブ世代を受け入れていく学校法人全体が ICT を駆使し、連携することができる環境を整備することで、いつでもどこでも、質の高い学習や研究、業務を主体的に行うことができるようにするため DX を推進する。)

- ・ 学生の主体性と実践性を育む教育改善

(学生が積極的に授業への参加を促す手段として、アクティブ・ラーニング(能動的学修)の要素を含む授業を促進します。授業での事前事後学修を促進し、学生の積極的な授業参加へ繋がります。)

・社会のニーズを踏まえ数理・データサイエンス・AI教育の充実
(社会的な評価として、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定」のリテラシーレベルの認定を目指します。)

・多様な学生に対するキャリア支援の拡充
(学修ポートフォリオを導入・活用し、学修成果の可視化及びキャリア支援の拡充を目指します。)

・2024 大学の開放授業講座 (リカレント教育)
本学は埼玉県と協定し、令和 6 (2024) 年度前期受講生の募集を開始します。

対象者：埼玉県内在住の 55 歳以上の方

趣 旨：埼玉県と大学が協力して大学の授業科目の一部を開放し、受講生に生活の充実や社会参加のきっかけづくりとしていただくことを目指す。

受講方法：埼玉県のホームページより、本学のリカレント教育に関するページを確認の上、申し込み手続きをしていただきます。

●埼玉工業大学リカレント教育に関するページ (埼玉県)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0603/4-rikarento.html>

●2024 年度前期リカレント募集案内 (埼玉工業大学)

https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/20755/17saitamakougyou_r6zenki.pdf

埼玉工業大学

さいたまこうぎょうだいがく
埼玉工業大学

1 講座名・定員など

(1) 授業科目

科目名	実施時期	曜日	時限	授業時間	定員
機械工学概論	前期	木	4	1 時限 9:10~10:50	若干名
工業法規		木	4		
生態環境科学		木	1	2 時限 10:55~12:35	
生活の科学		木	4	3 時限 13:20~15:00	
デジタル回路		火	4	4 時限 15:05~16:45	
ICT 概論		水	5	5 時限 16:50~18:30	
社会学概論		月	1		
産業心理学		木	1		

※授業の曜日・時限等は変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

※各科目とも授業は 14 回の予定です。

※授業は 4 月 10 日 (水) から開始します。

2 受講料等

- (1) 受講料 1科目(半期)につき10,000円。
 ※受講科目決定後に、振込にて納入いただきます。
 ※一旦納入された受講料は、お返しできませんのでご注意ください。
- (2) その他 教科書等の教材は自己負担でご用意いただきます。

10. 研究計画

①科学研究費補助金の申請拡大

科学研究費補助金の申請(増)を再度促し、外部資金の拡大を目指す。

※令和5年度 科学研究費獲得者

研究種目	新規 継続	所 属	代表者	令和5年度 直接経費	令和5年度 間接経費
基盤研究(C)	新規	機械工学科	福地亜宝郎	1,400,000	420,000
基盤研究(C)	新規	機械工学科	政木 清孝	1,400,000	420,000
基盤研究(C)	新規	生命環境化学科	本郷 照久	1,300,000	390,000
基盤研究(C)	新規	生命環境化学科	松浦 宏昭	2,000,000	600,000
若手研究	新規	情報システム学科	古川 靖	3,200,000	960,000
若手研究	新規	情報システム学科	桑木 道子	600,000	180,000
研究成果公開促進費	新規	機械工学科	長谷 亜蘭	150,000	0
基盤研究(C)	継続	機械工学科	長井 力	1,200,000	360,000
基盤研究(C)	継続	機械工学科	趙 希禄	500,000	150,000
基盤研究(C)	継続	生命環境化学科	木下 基	700,000	210,000
基盤研究(C)	継続	情報システム学科	山崎 隆治	700,000	210,000
計			11件	13,150,000円	3,900,000円

② 共同研究・受託研究 等

企業等との連携を通じて優れた研究成果を創出し、得られた研究成果を社会に還元するため、共同研究・受託研究を積極的に推進する。

※令和5年度 共同研究実績

研究種目	所 属	代表者	件数	令和5年度 獲得金額
共同研究	機械工学科	長谷 亜蘭	6	6,480,000
	機械工学科	福地 亜宝郎	3	1,450,000
	機械工学科	皆川 佳祐	1	750,000
	生命環境化学科	田中 睦生	3	1,500,000
	生命環境化学科	秦田 勇二	2	1,490,000
	生命環境化学科	松浦 宏昭	1	975,417
	情報システム学科	井上 聡	1	1,100,000
	先端科学研究所	丹羽 修	3	1,500,000
	先端科学研究所	内田 正哉	3	0
計			23 件	15,245,417 円

※令和5年度 受託研究実績

研究種目	新規 継続	所 属	代表者	件数	令和5年度 獲得金額
受託研究	新規	機械工学科	長谷 亜蘭	4	2,980,000
	継続	機械工学科	皆川 佳祐	1	1,300,000
	継続	生命環境化学科	秦田 勇二	1	50,000
	継続	情報システム学科	渡部 大志	7	76,640,772
	継続	情報社会学科	本吉 裕之	1	429,000
計				14 件	81,399,772 円

※令和5年度 寄附金実績

研究種目	所 属	代表者	件数	令和5年度 獲得金額
寄付金	機械工学科	趙 希禄	1	2,000,000
	機械工学科	政木 清孝	1	1,500,000
	機械工学科	長谷 亜蘭	2	900,000
	生命環境化学科	長谷部 靖	1	3,000,000
	生命環境化学科	松浦 宏昭	1	300,000
計			6 件	7,700,000 円

1.1. 研究計画（その他）

令和5年度（実績）

第21回若手研究フォーラム

若手研究者の育成を目的としフォーラムを開催する。

- ・主催：先端科学研究所 共催：埼玉工業大学大学院・先端科学研究所協力会
- ・開催日：令和5年8月8日
- ・開催形式：対面

【基調講演：2件】

(1) 「柔らかい生物・生体型ロボット開発によるSDGsへの挑戦」

中村太郎教授（中央大学理工学部・株式会社ソラリス[中央大学発ベンチャー企業]創業者/顧問）

(2) 「SDGs達成を目指した環境調和型材料開発」

橘熊野准教授（群馬大学大学院理工学府分子科学部門・食健康科学教育研究センター）

【特別講演：5件】

(1) 「分野横断研究のススメ」 政木清孝教授（機械工学科）

(2) 「ロボットとタスクプランニング」 中村晃教授（情報システム学科）

(3) 「深層学習の基礎と応用」 神田直大講師（情報システム学科）

(4) 「オンライン動画加工セッションにおけるクリエイティブ体験に関する研究」 田中崇恵講師（心理学科）

(5) 「風景構成法における〈動物〉イメージ「猫を中心に」」 高木絢子助教（臨床心理センター）

一般講演：口頭発表52件，ポスター発表32件 合計84件

参加者数：来場者123名（発表者・座長含む）

令和6年度（計画）：第22回若手研究フォーラムを開催予定

1.2. 産業技術展示会等への研究展示計画

本学から創出された研究成果の社会還元、技術移転を促進すること及び実用化に向けた産学連携等のマッチング支援を実施することを目的とした展示会へ出展を行う。

令和5年度（実績）

展示会名	実施月
①さいしんビジネスフェア 2023	6月
②第2回坂城経営フォーラム 産学官連携 先端研究シーズ講演会	9月
③西新宿自動運転バス公道走行実証実験	10月
④諏訪圏工業メッセ 2023	10月
⑤川崎鶴見臨港バス川崎市自動運転実証実験	10月
⑥メディカルクリエーションふくしま 2023	11月
⑦埼玉県産業振興公社 第3回産学連携技術シーズ発表会	11月
⑧ふるさと-ふかや 渋沢学フォーラム	11月
⑨業交流展 2023	11月
⑩第18回 東和新生会ビジネス交流会	11月
⑪深谷市渋沢栄一新一万円札発行記念 自動運転BUS 試乗会	1月
⑫彩の国ビジネスアリーナ 2024	1月
⑬奈良県明日香村自動運転実証実験	2月
⑭奈良県三郷町自動運転実証実験	2月

令和6年度（計画）

展示会名	実施月
①さいしんビジネスフェア 2024	6月頃
②イノベーション・ジャパン 2024	8月頃
③諏訪圏工業メッセ 2024	10月頃
④2024 さかきモノづくり展	10月頃
⑤メディカルクリエーションふくしま 2024	11月頃
⑥彩の国ビジネスアリーナ 2025	2月頃
⑦埼玉県産業振興公社シーズマッチング会	3月頃

1.3. 地域交流実績及び地域交流計画

①市民のための公開講座及び心理学セミナー

大学の教育研究の成果を地元や社会へ還元することを目的とし実施する。

・公開講座（対面・オンライン開催）

令和5年度（実績） 受講者：計394名

6月3日	経営社会学講座（本吉准教授）	受講者：対面36名,オンライン29名
6月3日	国際植物の日特別講座（秋田教授）	受講者：対面47名,オンライン23名
6月10日	お天気と気象の講座（高橋講師）	受講者：対面49名,オンライン31名
6月10日	地元バイオマス活用ヘルスケア講座（長谷部教授）	受講者：対面18名,オンライン27名
6月17日	AI画像処理講座（望月講師）	受講者：対面34名,オンライン48名
6月24日	航空機耐疲労設計講座（政木教授）	受講者：対面30名,オンライン22名

・心理学セミナー（オンライン開催）

令和5年度（実績） 受講者：計80名

7月1日	家族臨床心理学入門（三浦教授）	受講者数：26名
7月29日	日常の中にあるこころの動き（伊藤准教授）	受講者数：18名
9月2日	「みる」仕組み（曾我教授）	受講者数：18名
10月14日	うつ病のはなし（村中講師）	受講者数：18名

令和6年度（計画）：公開講座・心理学セミナーともに対面にて開催予定

②SAIKO フェア

本学の研究や地域連携活動等を様々な実験・体験教室・展示品を通して広く地域の人や一般市民人に紹介を行う。

令和5年度（実績）

10月8日（対面開催） 来場者数：計1,079名

- ・マイクロナノ研究室「摩擦の力を体験してみよう」長谷准助教
- ・機能性流体力学研究室「磁石の不思議な世界を体験してみよう」岡田講師
- ・植物ゲノム研究室「魅惑の花の世界」秋田准教授
- ・認知ロボティクス研究室「AI・ロボットとおしゃべりしよう」橋本教授
- ・視覚情報処理研究室「コンピュータビジョンと画像処理」望月講師
- ・技術教育研究室「簡単な木製品をつくろう」小川教授
- ・情報コミュニケーション研究室「CGキャラクターになりきろう」森沢教授

- ・経営企画研究室「地域活性化を考えよう」本吉准教授
- ・臨床心理学研究室「こころを映し出す方法」滝澤講師

令和6年度（計画）：開催予定

③先端科学研究所協力会講演会及び企業見学会

協力会員（企業）との共同研究、地域企業へ技術移転の促進及び実用化に向けて研究情報の提供等を行うため講演会及び企業見学会を実施する。

令和5年度（実績）

- 7月11日 第1回協力会講演会（対面・オンライン開催）
 テーマ：「Society 5.0を見据えた教育・人材育成についての最新動向」
 講師：桑木講師（情報システム学科）
 受講者数：対面23名,オンライン26名
- 9月1日 第2回協力会講演会（対面・オンライン開催）
 テーマ：「見て楽しい、食べて美味しいアスパラガス
 ～食べるだけでない！アスパラガス研究最前線！～」
 講師：東北大学大学院 生命科学研究科 准教授 菅野 明 氏
 受講者数：対面31名,オンライン19名
- 3月12日 第3回協力会講演会（対面・オンライン開催）予定
 テーマ：「認知症とともにある日々」
 講師：滝澤講師（心理学科）

- ・企業見学会：開催見送り

令和6年度（計画）：講演会 年2回（6月・10月）
 企業見学会 年1回（12月）
 セミナー 年1回（12月）

④「科学と仏教思想研究センター」研究会及び公開セミナー

仏教や宗教、科学をめぐる諸問題について議論を行う研究会等を開催する。

令和5年度（実績）：オンライン開催

- 5月26日 第1回研究会（読書会）「心はこうして創られる--「即興する脳」の心理学」
 7月28日 第2回研究会「仏教の唯識論と深層心理学についての批判的考察」
 9月15日 第3回研究会「普遍道徳と宗教」
 12月1日 第4回研究会「シリア・キリスト教（景教）「思想」-「神学、釈義、教義」ではなく」

※科学と仏教思想研究センター公開セミナーは開催中止

⑤AI 研究センター講演会

AI 研究を推進するため講演会を開催する。

令和 5 年度（実績）

12 月 5 日 第 1 回講演会（対面開催）

テーマ：「AI 革命の本質と社会へのインパクト」

講師：事業創造大学院大学 産官学連携担当副学長／同 事業創造研究科 教授

黒田達也 氏

受講者数：51 名

令和 6 年度（計画）：開催予定

⑥子ども大学ふかや（深谷市教育委員会との協働事業）

多様化している現代社会において、共生社会の理解と課題に対応する生きる力を地域で育むとともに、子どもの知的好奇心を刺激する学びの提供を目的とし開校する。

（子ども大学ふかや実行委員：教育研究支援課 笠原貴弘）

令和 5 年度（実績）：深谷市内の小学校 4 年生～6 年生、参加者：40 名

本学会場他 5 日間（8/5、8/9、8/17、8/26、9/9）対面開催

⑦ふるさと ふかや/・渋沢学フォーラム（深谷市との協働事業）

深谷市で学ぶ子どもたちが、郷土の偉人・渋沢栄一翁の『立志と忠恕』の精神を育み地域社会に愛着をもつとともに、持続可能な地域社会の創り手を育成することを目的に、市内の小中学生、高校生、大学生が参加する形で開催する。

令和 5 年度（実績）

開催日：11 月 23 日

学生スタッフ派遣（司会担当：機械工学科・情報社会学科から各 1 名）

自動運転技術・環境物質化学研究室（ゆりの茎から和紙を作る技術）の研究展示

⑧深谷 渋沢栄一ゆかりの地めぐり自動運転バスの試乗会

渋沢栄一新一万円札発行記念として「渋沢栄一記念館」（深谷市八基）から公道約 13 キロを走行する実証実験を兼ねた試乗会。深谷市と埼玉工業大と 6 つの民間企業が連携する「深谷自動運転実装コンソーシアム」が運行する。

令和 5 年度（実績）

試乗会：1 月 12 日 市立八基小学校の 6 年生 12 人

⑨高等学校等との連携推進（高大連携・教育連携）

相互の教育交流を通じ高校生の視野を広げ、進路に対する意識及び学習意欲を高めるとともに大学・高校の求める学生像・生徒像及び教育内容への理解を深め、かつ、大学教育、高校教育の活性化を図るために教育協定を推進している。

- ・正智深谷高校を含め近隣高等学校との高大連携を推進する。

協定校：令和5年3月現在 合計39校 [内訳] 高校37校・専門学校1校・日本語学校1校

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 智香寺学園正智深谷高等学校 | 21. 埼玉県立皆野高等学校 |
| 2. 埼玉県立久喜工業高等学校 | 22. 群馬県立吉井高等学校 |
| 3. 埼玉県立深谷商業高等学校 | 23. 埼玉県立川越工業高等学校 |
| 4. 埼玉県立熊谷工業高等学校 | 24. 埼玉県立大宮工業高等学校 |
| 5. 埼玉県立児玉白楊高等学校 | 25. 平方学園明和県央高等学校 |
| 6. 埼玉県立寄居城北高等学校 | 26. 埼玉県立川口工業高等学校 |
| 7. 埼玉県立深谷高等学校 | 27. 埼玉県立浦和工業高等学校 |
| 8. 埼玉県立深谷第一高等学校 | 28. 埼玉国際学園（日本語学校） |
| 9. 群馬県立伊勢崎工業高等学校 | 29. 埼玉県立羽生第一高等学校 |
| 10. 群馬県立前橋工業高等学校 | 30. 大妻学園大妻嵐山高等学校 |
| 11. 長野県坂城高等学校 | 31. 埼玉県立滑川総合高等学校 |
| 12. 山梨県甲府市立甲府商科専門学校 | 32. 埼玉県立狭山工業高等学校 |
| 13. 埼玉県立秩父農工科学高等学校 | 33. 栃木県立宇都宮工業高等学校 |
| 14. 埼玉県立妻沼高等学校 | 34. 埼玉県立新座総合技術高等学校 |
| 15. 群馬県立高崎工業高等学校 | 35. 桐生市立商業高等学校 |
| 16. 群馬県立藤岡工業高等学校 | 36. 埼玉県立熊谷西高等学校 |
| 17. 群馬県立藤岡中央高等学校 | 37. クラーク記念国際高等学校 |
| 18. 日々輝学園高等学校 | 38. 長野県上田東高等学校 |
| 19. 埼玉県立進修館高等学校 | 39. 清和学園高等学校 |
| 20. 群馬県立太田工業高等学校 | |

令和5年度（実績）

【高大連携事業】

- ・協定校大学見学会（体験授業等）実施（20校） 来校者数（高校生）：計595名
- ・工業高校学習成果研究発表会における指導講評の依頼（2校）
- ・インターンシップ事業（協定校からの生徒受入れ）（2校）
- ・SSH講座への講師派遣（1校）
- ・協定校文化祭オブジェ制作協力（1校）
- ・付属高校交換留学生のための見学会

令和6年度（計画）：協定校と協議し実施を検討する。

⑩深谷市をはじめとする近隣の市町村との連携を推進するとともに各種イベントに積極的に協力・参加するなど地域交流を通じ大学のアピールを行う。

- *ふかや市民大学（生涯学習）へ委員及び講師の派遣
- *深谷市教育委員会へ委員の派遣
- *メンタルヘルス相談業務委託（臨床心理センター）の継続
- *市民を対象とした「子育て支援・幼児グループ」を開講（臨床心理センター）
- *日本機械学会主催の「ものづくり体験教室」を児童向けに開催
- *深谷商店街連合会との連携協力
- *深谷市七夕まつりへの出展（11月）
- *深谷市産業祭への出展（7月）
- *ふるさとふかや 渋沢学 専門員会へ委員の派遣
- *DEEP VALLEY Agritech Award 審査員の派遣
- *子ども大学よりいとの連携
- *美里町との包括連携協定
- *本庄総合市民大学への講師派遣（令和6年度にむけ準備中）
- *子ども大学ほんじょうとの連携（令和6年度にむけ準備中）

⑪長野県坂城町（坂城町・財団法人さかきテクノセンター・坂城高校）との連携推進

- *埼玉工業大学坂城町講座「おもしろ理科実験」
- *さかきテクノセンター坂城経営フォーラム講師派遣
- *「さかきふれあい大学」市民講座へ講師派遣
- *「さかきふれあい大学」埼玉工業大学坂城町講座「お出かけ編」
- *坂城高校文化祭（葛尾祭）へ研究展示
- *坂城高校大学見学会
- *坂城町との連携協定に基づく連携会議
- *坂城高校を発展させる会

⑫国際交流計画

【日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプロジェクト」】主催：JST
令和5年度（実績）：応募中止により申請を見送り

令和6年度（計画）：申請にむけ準備中（招聘機関：ダナン大学）

【第3回ダナン大学・埼玉工業大学国際シンポジウム】主催：先端科学研究所国際交流研究センター
昨年に引き続き国際交流研究活動を推進すべく、海外協定校であるベトナムダナン大学と環境分野をテーマとしたオンラインシンポジウムを開催する。

開催日時：2024年3月21日（予定）

（日本時間11：00～13：00，ベトナム時間9：00～11：00）

参加者：ダナン大学および埼玉工業大学の学生，教職員

シンポジウム タイムテーブル (実施内容案)

VN	JP	Contents
9:00	11:00	挨拶 (丹羽先端研所長 (経緯等の説明), 5分)
9:05	11:05	研究紹介 1 (埼玉工業大学, 講演 15分, 質疑応答 5分)
9:25	11:25	研究紹介 2 (ダナン大学, 講演 15分, 質疑応答 5分)
9:45	11:45	研究紹介 3 (埼玉工業大学, 講演 15分, 質疑応答 5分)
10:05	12:05	休憩 (10分)
10:15	12:15	研究紹介 4 (ダナン大学, 講演 15分, 質疑応答 5分)
10:35	12:35	交流活動活性化に向けたフリーディスカッション (20分) <ul style="list-style-type: none"> ・ さくら招へいプログラムの紹介 (埼玉工業大学) ・ これまでの事例紹介と要望 (埼玉工業大学, ダナン大学) ・ 若手研究フォーラムの案内 (埼玉工業大学) ・ 産学官交流センター行事等での講演や展示 (埼玉工業大学)
10:55	12:55	挨拶 (Dr. Hoang Hai ダナン大学日本センター長 (総括), 5分)
11:00	13:00	閉会

1.4. 就職計画

(1) 就職課主管事業

(地域交流)

- ① 各都道府県との「Uターン就職促進に関する協定」における事業 (群馬県/栃木県/長野県)
 - ・ 地方企業との情報交換会参加 (10月以降参加予定)
- ② 坂城町及び公益財団法人さかきテクノセンターとの連携事業
 - ・ 学生に対する町内企業見学会の実施 (9月実施予定)
 - ・ 「大学等就職担当者と坂城町企業採用担当者との情報交換会」の実施 (9月実施予定)

(就職ガイダンス・就職活動準備講座)

- ① インターンシップガイダンス (5月~7月開催予定)
- ② 学年別就職ガイダンス (4月~2月複数回実施予定)
- ③ S A I K Oドリルガイダンス (6月~S P I / w e bテスト/テストセンター対策)
- ④ 公務員ガイダンス/対策講座 (8~9月/2~3月開催予定)
- ⑤ 各種就職活動準備講座 (前期・後期、金曜5限に開催予定)
 - ・ 自己分析講座
 - ・ 業界研究講座
 - ・ ビジネスマナー講座
 - ・ UIJ ターン講座
 - ・ スーツ着こなし講座
 - ・ 先輩たちの就職活動体験談報告会
 - ・ 自己PR作成講座
 - ・ OpenES、マイキャリアボックス対策講座
 - ・ 志望動機作成講座
 - ・ WEB面接、対面面接対策研修 (11~3月複数回開催予定/対面研修、オンライン研修)
 - ・ S P I筆記試験集中対策講座 (S P I初級・応用/1月~2月実施予定)
- ⑥ 履歴書写真撮影会
- ⑦ UIJ ターン希望者のための各自治体による相談会 (2月実施予定)

(学内合同企業説明会等)

- ① 4年生向け ミニ合同企業説明会 (4月～09月・複数回実施予定)
- ② 4年生向け 個別企業説明会 (4月～12月・複数回実施予定)
- ③ 4年生向け 16大学合同企業説明会 (8月開催予定) 埼玉県大学就職問題協議会主催
- ④ 4年生向け JIET加盟IT企業合同説明会 (7月開催予定) 日本情報技術取引所主催
- ⑤ 3年生向け 合同企業研究セミナー (2月開催予定)

(保護者向け就職ガイダンス)

- ① 3年生 保護者向け就職ガイダンス (5月以降開催予定)

(学生支援事業)

- ① キャリアカウンセラーによる相談 (4月～3月)
- ② 全学科・1年～3年生対象／工場見学会 (埼玉・群馬 各県2社見学予定)

(情報交換会及び加盟団体)

- ① 埼玉県大学就職問題協議会
- ② 関東地区大学理工系就職研究会
- ③ 地方自治体や業者主催の就職情報交換会参加

(2) キャリア支援センター主管事業

(キャリア形成支援系講義)

- ① 前期 (8コマで、以下の学生を対象に実施予定)
 - ・機械工学科、情報システム学科、生命環境化学科3年生 (必修)
 - ・情報社会学科、心理学科3年生 (選択)
 - ・情報社会学科、心理学科2年生 (選択)
 - ・情報システム学科、生命環境化学科1年生 (必修)
 - ・機械工学科1年生 (選択)
- ② 後期 (1コマで、以下の学生を対象に実施)
 - ・情報社会学科、心理学科3年生 (選択) ※他学科の学生にも履修を推奨

(海外リーダーシップ研修)

- ① 研修実施 (8月にベトナムとインドで計2回、3月にスリランカで1回開催予定)
- ② 渡航地事前視察 (11月にインドネシアで1回実施予定)

(資格取得支援講座)

- ① ITパスポート取得支援講座 (8月～9月に開催予定)

(キャリア面談)

- ① 大手企業への就職を目指す学生の個人面談、グループ面談 (一年中実施予定)

(就職活動勉強会)

- ① 大手企業への就職を目指す学生向け勉強会 (1月から5月まで実施予定)

(面接特訓会)

- ① 年末面接特訓会 (12月に3日間実施予定)

(就職先との関係構築・維持)

- ① 企業訪問 (主に9月～12月に採用の御礼と依頼のため訪問予定)

(大手企業に就職した卒業生の現状把握)

- ① 卒業生訪問 (主に9月～12月に様子伺いと勤務先の採用情報取得のため訪問予定)

(キャリア支援センター業務にひもづく広報活動)

- ① 大学公式 Web サイト・キャリア支援センターSNS の更新、取材対応、講演 (随時実施予定)

Ⅲ. 高校の部

■ 建学の精神

優しく勇気があり、強い人間として生き、
全ての人間が救われる道を説いた法然上人の教えの上に立つ

■ 育てたい生徒像

自分で考え、決断し、行動できる人間を育てる

■ 今年度の重点事項 (できるものから検討開始)

- (1) 特別進学系の強化
 - ◇体制づくり (特進改革委員会の活動の充実)
 - ◇特進の生徒募集の実施 (外部への募集活動)
 - ◇学びの場の創設 (力強い学ぶ集団の創設 部活動化)
- (2) 学ぶ集団の基本づくり (全コース)
 - ◇学習習慣の定着
 - ◇家庭学習の働きかけ
- (3) 募集活動の強化
 - ◇説明会の時期・実施方法の検討
- (4) 行事の見直し (時期、内容)
 - ◇学習体制、進学指導体制の確立に向けて
 - ◇高校生活の充実 楽しい高校の創設 (イベントの充実)
- (5) 校則内容の確認 (ブラック校則との整合性の確認)
 - ◇弾力的な対応が可能なものの検討 (生徒募集との関連)
- (6) 校務分掌編成の検討 (組織力の高める在り方の検討)
- (7) 授業料見直しの検討
 - ◇安定的な経営基盤の確立
- (8) 助け合う力強い職員集団を目指して
 - ◇職員面接の継続
 - ◇授業観察の継続

(9) 広報活動強化

◇SNSの活用

◇塾・中学校等訪問

(10) コースの検討

◇SHIP4コースの在り方の検討

◇一般入試受験者の増加

◇40人単位のクラスの確立に向けて

■各分掌の達成目標

【教 務】

- ①学業を中心とする学校に（勉強する雰囲気醸成）
- ②学ぶ習慣をつける
- ③理解できたことの喜びを体験させる
- ④生徒に考えさせる（なぜ学ぶのか、この学びは何につながるのか）
- ⑤効率的なクラス設定
- ⑥個別最適な学び（学力・学習時間・学習スタイル）
- ⑦土曜日の在り方の検討

【進 路】

- ①進学校としての実績を伸ばす
- ②私立上位大学への実績
- ③一般受験に挑戦する生徒を増やす
- ④安易な指定校推薦受験からの脱却
- ⑤長期的なキャリアプランの形成（本当にやりたいことは何か）

【生徒募集】

- ①単願希望生徒の増加：目標 360 名（併願の戻りが望めない状況にあるため）
- ②オープンスクール参加者の増加：目標 800 組／1,600 名
- ③個別相談件数の増加：目標 2,200 件
- ④他校との差別化（他校にない特色・学校行事など本校の魅力をあらゆる媒体を駆使して発信する）
- ⑤「正智深谷はどういう生徒を育てるのか」を明示し、その実現に向けて邁進していく

【生徒指導】

- ①主体的に取り組む姿勢を身につける
- ②生徒が積極的に参加できる学校（生徒会・委員会活動の活性化）
- ③高校生として如何にあるべきか、生徒自身が考える
- ④校則の見直し（見直すべきは見直し、継続すべきは継続する）

■教員の行動原則

①圧倒的な当事者意識

- ・何事に対しても他人事ではなく、当事者意識を持って取り組む。
- ・批判的な立場を捨て、建設的な前向きな思考で物事に取り組んでいく。

②不易流行

- ・偏見や先入観を捨て、新たな視点で教育活動に取り組む。
- ・求められる学力の変化に対応した授業の実践。

③凡事徹底

- ・日常的な規範意識の定着（服装・身だしなみ・校則など）
- ・気持ちの良い挨拶、学習環境の整備と授業に臨む姿勢。
- ・感染防止対策。必要に応じて。（「マスク着用」「手洗いの励行」「教室の換気」）

④ハラスメントの撲滅

- ・パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、モラルハラスメント等への徹底対応。
（アンケートの実施・研修会の実施・相談窓口の設置）
- ・体罰の厳禁。日常の行動や言動をこれまで以上に意識する。

⑤ラポールの形成

- ※ラポール：心理学用語。人と人との関係が和やか心の通い合った状態にあること。
- ・生徒との信頼関係の構築。
- ・教員同士の信頼関係の構築。

■教員の行動目標

①授業力の強化

- ・求められる学力の変化に合わせた授業の実施。
- ・「学力の3要素」を向上させるための授業への取り組みを進める。
「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」
- ・生徒を主体的に思考を深めていく授業スタイルへの転換を図っていく。

- ・iPadを活用した授業の実践。
 - iPadのできること（授業の効率化）
 - iPadでしかできないこと（教育効果の向上）

②ウェブを中心とした生徒募集活動への転換

- ・ホームページ、SNS等を戦略的に活用し、効果的かつ効率的な募集活動を展開する。
- ・具体的なデータに基づいたウェブを中心とした戦略的な生徒募集活動を行っていく。
- ・「固定観念」「思い込み」から脱却し、積極的な新しい取り組みを行っていく。

③一人一人の希望進路を実現するための指導実践

- ・大学入学共通テストをはじめとする大学入試の変化に対応する指導の徹底。
- ・新型コロナウイルスの影響による、社会情勢の変化見極めた適切な進路指導を行う。
- ・キャリアプランの形成を意識した進路指導の実践。

■教員の行動指針

教師は「教える職人」「学びの専門家」「あるべき大人の見本」

①「教える職人」として

- ・日頃より教材研究に努め、指導力の向上を図る。 → 全ての基本となる授業力の向上。
- ・iPadの活用など新しい教育活動に対して固定観念を捨て、積極的に取り組みスキルアップを図る。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実践のために、一方通行でない授業を意識し、実践していく。
- ・授業見学や研究授業を積極的に活用し、教師同士の研鑽の機会とする。

②「学びの専門家」として

- ・常にアンテナを高くし、教育関連情報などの収集に努め、それらを実践に生かす。
- ・多様化する生徒へ対応するための指導法について、研鑽に努める。
- ・iPadの活用や双方向型授業、課題解決型授業、生徒のアウトプットの機会を増やす授業を意識し、その向上を常に図る。
- ・教師は「教育のプロ」。
分かりやすい授業はもちろん、如何に生徒にやる気を出させるかを常に意識して授業を行う。

③「あるべき大人の見本」として

- ・気持ちの良い挨拶を教員から徹底して実行する（年令・立場・人間関係問わず）。
- ・「当たり前のことを当たり前にする」姿勢を自ら示す。教員の常識は、世間の非常識ではない。
- ・清潔感を持った身だしなみを常に心掛ける（服装・整髪・髭を剃る／整える・酒／タバコの臭い等）。
- ・常に丁寧な言葉遣いを心掛け、お互いが気持ちよく会話ができるよう意識する。
- ・教育者として我々の「言動」「行動」の全てが、保護者や地域より見られていることを忘れない。その姿が学校の評価となり、生徒募集に繋がっていくことを常に意識する（生徒・保護者・地域）。